

中山道太田宿400年祭

中山道太田宿を後世に残そうと大切に見守っている人たちがいます。元気のいい声が客人をもてなす「ふれあい風土舎のお年寄り」、太田宿の活性化を市民レベルで取り組んでいる「太田宿草鞋の会」、太田宿の核となる「本陣、脇本陣の当主」、子どもころから社会体験をとおして太田宿の良さを学んでいる「太田小学校のみなさん」。

みなさん、気持ちはひとつ。
「中山道太田宿を、いつまでも大切に・・・」



夜の小松屋には、旅籠の風情が漂います

毎日健康で暮らせるのも、ここでみんなと話せるから

ふれあい風土舎のみなさん



写真
右から福田さん、片岡さん、岩田さん、堀さん、山田さん、奥村さん、野口さん

「このじやい。ここからきたの」
小松屋前のふれあい風土舎からは、今日も元気のいい声が、聞こえてきます。
店を切り盛りするのは、平均年齢80歳代の元気なお年寄りです。
「福祉会館も遠いし、家のことをすませたら、ここでの世間話が楽しい。あんきなどころやわ」
「冷やかして、店をのぞかれるけど、気にしやへん。お客さんと話するのが楽しいわ」
「ここで、いろんな話をするから、毎日楽しいわ」
「家にはつかいても話もないし、ここへ来れば、だれかの顔が見えるもんであかるくなれるよ」
「最近、芸能人も来るでよ。生きとって良かったわ。アハハッ」
いつまでも、話は尽きません。

「歴史的財産」と「人」をうまく織りなしたい

太田宿草鞋の会（会長 渡辺直由さん）



太田宿草鞋の会のみなさん（関宿にて）

太田宿草鞋の会は、平成11年に歴史的財産である太田宿を活性化させようと、太田宿を愛する人たちを中心に活動が始まりました。
主な活動として、小松屋（旧吉田家住宅）での「まちおこし事業」や中山道での各種イベントを開催することにより、訪れる人たちに中山道太田宿の良さをアピールしています。
また、太田宿活性化への取り組みとして、先遣地視察を行っています。今年は、6月に東海道の宿場町「関宿（三重県関町）」を訪問して、地元の方々の取り組みを学びました。
会長の渡辺さんは、「宿駅制度400年の意義は、400年後の姿を思い描くことだと思っています。各地の宿場を訪ねていろいろ工夫しているところを学び、少しでもいいから太田宿の活性化につなげたい。」
縦糸を歴史的財産とするならば、横糸を人としてうまく織りなすことができればいいと思います。皆さんも、ぜひ私たちの活動に参加しませんか。」と話しています。